

酒井広治歌碑

(さかいひろじかひ)



【所在】

鷹栖町嵐山展望台
(嵐山公園頂上付近)

【歌碑建立】

昭和 33 年

旭川歌壇の育成者 酒井広治

歌人・酒井広治は明治 27 年 4 月、福井県生まれ、同 31 年に旭川市に来て旭川中学校を卒業し、東京の歯科専門学校で学び、その間、北原白秋に師事して歌の道に励んだ。帰郷後、北海道電力、旭川信用金庫に勤務のかたわら、歌誌「あさひね」の指導的立場にあって新聞歌壇選者として活躍した。

旭川歌壇の育成に努めた第一の功労者で昭和 24 年、市の文化功労者として表彰されている。同 29 年に自選歌集「雪来る前」を出版するが、31 年 1 月 30 日に逝去、建碑は死去 3 年後であった。

昭和 33 年、歌人の松田一夫、小林孝虎の両氏が酒井広治歌碑建立期成会を設立し、推進役となって建立運動が進められた。

ちょうどこのころ、皇太子殿下（現今上天皇）の来道があり、嵐山を御覧に入れ、アイヌの舞踊など御覧に入れる計画で、嵐山公園整備を急いでいた矢先であり、市の観光課は歌碑の建立に協力し、歌碑の揮毫も宮格二（コスモス主宰）に依頼した。しかし、この計画は碑石が小形であったため、期成会では計画の変更を申し出て、旭川市と北方短歌社の共同建碑ということにした。